

ジョイサポコラム No.1

「女医こそ開業」という、ご提案

湘南内科医院 院長 野尻 陽子

私の実家は昭和9年に祖父が開業した「湘南内科病院」でした。物心ついた当時は病室もありましたが、私が10才のころに病室を廃止し「湘南内科医院」となりました。

病室のある頃父は大変多忙で、当直に加え夜間の往診も受けつけていたので、父が夜中に呼び出されてでかけていく姿を、今でも覚えています。真夜中でも患者さんに呼ばれば、ため息ひとつつかずに出ていく父を深く尊敬して育ちました。両親から「医者になって後を継いでほしい」と言われた記憶は一度もありませんが、自然と私も父のような町医者になりたいと思っていました。高3の時、音大か医学部かで少し迷いましたが、母の「お

じいちゃん、お父さんがこの地で開業してきて、患者さんも家族ぐるみ2代・3代続けて来てくださっている。そういう地域の人とのつながりは一朝一夕で築けるものではないし、それを無に帰すのは残念ねえ。」というつぶやきを聞き、後継ぎになる決心をしました。

一方で私には、結婚・出産願望もあり、もし子供を授かったならば、できる限り自分の手で育てたいとも考えていました。

放射線科を選んだのは、幅広くどの科の疾患も勉強できることと、結婚・出産を視野に入れてのことでした。長女出産後女子医大を退職し、1年間は全く仕事をせず育児に専念

仕事	年	プライベート
東京女子医大病院放射線科入局	1989	大学卒業
	1992	結婚（千葉県君津市に在住）
放射線診断専門医取得	1994	（千葉県市原市へ移転）
11月より産休（その後退職）	1995	12月長女出産
休業	1996	
1月より帝京大学市原病院放射線科パート勤務	1997	7月長男出産
湘南内科医院パート勤務	2002	（横須賀市へ移転）12月次女出産
湘南内科医院常勤 現在に至る	2008	

しました。初めての子育ては大変でしたが、念願通り生まれたてのわが子を自分の手で育てることができた貴重な1年間でした。

育休明けは夫の勤務先だった帝京市原病院の放射線科にパートとして勤務でき、半年後に長男を出産。その後は週2日ほどから徐々に勤務日数を増やしながら約5年間お世話になりました。バタバタと慌ただしい日々でしたが、女性の働き方に理解ある上司のおかげで育児と仕事の両立ができました。

長女が小学校、長男が幼稚園に上がるのを機に横須賀に帰って来るとすぐに次女を授かりましたが、上2人が比較的大きく、両親も医院の職員も大いに協力してくれたので、千葉にいた頃よりずっと楽でした。

以後の職場の上司はもちろん父です。学校や幼稚園行事があれば快く休ませていただきましたし、通勤時間も短いため子供との時間をたっぷり持ちながら働くことができました。

た。

現在、子供達は24才、22才、高3になりました。自分がいかに上司に恵まれ、幸せな育児をしてきたか、今実感しています。ただ、両親に倣い子供達の進路にあまり口出ししなかったためなのか、残念ながら3人とも医学の道に進みません。3代続いた当院も私の代で閉めることになりそうです。

さて、小さなお子様をお持ちの、又はこれから出産をしたいと思っている女医の皆さん。育児も仕事も諦めたくないのであれば、そしてもし地域医療にもご興味があるならば、家事・育児に理解のある開業医のもとで働きいずれば後を継ぐ、というのも選択肢の1つではないでしょうか。

もしかしたら「女医こそ開業」かもしれないと思うのです。

